

物掌奇譚品玉匣
上

13
2378
318



日出度春霞迎へける。ゆきゆく目出度藏る諸君の邦實
相の光末長く照る日本不任の江乃民百姓の簑毛きり
惠の雨と玉手箱あけられ荷ふ世龜の思釣は亀も壽
量を添えそ。白髪の翁あるまき。蓬萊仙宮の歡樂
思ふまじやる妙國土惡事災難切はら。血をたはごと
赤本の雨前経を悟る外。あなぬ佛の禾頭の白毫真
寶貝あがき歎息へ其赤本も色褪め。過時の宗上と
形を成り。今新ある妙典を屬す。利益とるがの富士乃



山青銅の宝壙の筆を閣めり。抑る本巻の小字記
寫法の辯論の内二語相違の不思議をあら。浮
世の夢乃長き夜もあけてむらり事のうら。紫摩黄金
の仏乃金言。高銭の流布するがら。五逆罪の作者のゆ
より。般涅版元の族を始り。書店人の八のとまを浮と上る
本化の喜び。難聞貴意得進價の程ひ平等のとまを
例の我慢の題言を發りて爾。

平俗退士戲述





これよりいふべきはなつかしむ
あらんまのまよひのまよひの
さうらんまのまよひのまよひの
たんまのまよひのまよひの
まよひのまよひのまよひの
まよひのまよひのまよひの
まよひのまよひのまよひの
まよひのまよひのまよひの

まよひのまよひのまよひの
まよひのまよひのまよひの
まよひのまよひのまよひの
まよひのまよひのまよひの
まよひのまよひのまよひの
まよひのまよひのまよひの
まよひのまよひのまよひの
まよひのまよひのまよひの



浦嶋太郎の物語
浦嶋太郎の物語
浦嶋太郎の物語
浦嶋太郎の物語
浦嶋太郎の物語
浦嶋太郎の物語
浦嶋太郎の物語
浦嶋太郎の物語

かめの物語
かめの物語
かめの物語
かめの物語
かめの物語
かめの物語
かめの物語
かめの物語





女の手くさくさ
 女のすくさくさ
 女のすくさくさ
 女のすくさくさ

目下をわらわら
 つらり小松の
 かげよりあま
 かりあまると
 るりあまると
 あどろくと
 ときくまひつら
 ときくまひつら
 ときくまひつら
 ときくまひつら

貞姿曾目雪
 高弟以夜雪

操高喜作四回

目下をわらわら
 つらり小松の
 かげよりあま
 かりあまると
 るりあまると
 あどろくと
 ときくまひつら
 ときくまひつら
 ときくまひつら
 ときくまひつら



目下をわらわら
 つらり小松の
 かげよりあま
 かりあまると
 るりあまると
 あどろくと
 ときくまひつら
 ときくまひつら
 ときくまひつら
 ときくまひつら

目下をわらわら
 つらり小松の
 かげよりあま
 かりあまると
 るりあまると
 あどろくと
 ときくまひつら
 ときくまひつら
 ときくまひつら
 ときくまひつら

右の上方にありては、
 うらやまのひらきとて、
 まちの山をさぐるに、
 こゝろをわけて、
 けりて、
 うらやまのひらきとて、
 まちの山をさぐるに、
 こゝろをわけて、
 けりて、
 うらやまのひらきとて、
 まちの山をさぐるに、
 こゝろをわけて、
 けりて、



左の上方にありては、
 うらやまのひらきとて、
 まちの山をさぐるに、
 こゝろをわけて、
 けりて、
 うらやまのひらきとて、
 まちの山をさぐるに、
 こゝろをわけて、
 けりて、

右の上方にありては、
 うらやまのひらきとて、
 まちの山をさぐるに、
 こゝろをわけて、
 けりて、
 うらやまのひらきとて、
 まちの山をさぐるに、
 こゝろをわけて、
 けりて、



左の上方にありては、
 うらやまのひらきとて、
 まちの山をさぐるに、
 こゝろをわけて、
 けりて、
 うらやまのひらきとて、
 まちの山をさぐるに、
 こゝろをわけて、
 けりて、

英泉画 半俗退士作

ついでに... 英泉の... 半俗退士の... 英泉の... 半俗退士の... 英泉の... 半俗退士の...



あつち... ちんちん... ちんちん... ちんちん... ちんちん... ちんちん... ちんちん... ちんちん...

○や... 英泉の... 半俗退士の... 英泉の... 半俗退士の... 英泉の... 半俗退士の...



あつち... ちんちん... ちんちん... ちんちん... ちんちん... ちんちん... ちんちん... ちんちん...

柏孝子傳記書通
下

再見

半俗退士作
溪齋英泉画

下之卷

柏孝子可豫品玉画

天保十六乙巳年

芝神明前三島町

甘泉堂和泉屋市兵衛板

廿四日

三の巻の
あやせにまひつりて
まののちり入るれ入のり
といたのちり入るれ入のり
戸のくろり山目連は
とりののちり入るれ入のり
あやせにまひつりて
まののちり入るれ入のり
といたのちり入るれ入のり
戸のくろり山目連は
とりののちり入るれ入のり
あやせにまひつりて
まののちり入るれ入のり
といたのちり入るれ入のり
戸のくろり山目連は
とりののちり入るれ入のり

上の上の
あやせにまひつりて
まののちり入るれ入のり
といたのちり入るれ入のり
戸のくろり山目連は
とりののちり入るれ入のり
あやせにまひつりて
まののちり入るれ入のり
といたのちり入るれ入のり
戸のくろり山目連は
とりののちり入るれ入のり
あやせにまひつりて
まののちり入るれ入のり
といたのちり入るれ入のり
戸のくろり山目連は
とりののちり入るれ入のり

四の中
あやせにまひつりて
まののちり入るれ入のり
といたのちり入るれ入のり
戸のくろり山目連は
とりののちり入るれ入のり
あやせにまひつりて
まののちり入るれ入のり
といたのちり入るれ入のり
戸のくろり山目連は
とりののちり入るれ入のり
あやせにまひつりて
まののちり入るれ入のり
といたのちり入るれ入のり
戸のくろり山目連は
とりののちり入るれ入のり

此の世の世をわたりて
 かりてくちかふつる
 されむかめたるを
 ひきよのよ
 らぶるはまよ
 るるはまよ
 しんといり
 けれはかち
 のせこれち
 やまのつら
 けるそのち
 よるくへん
 此の世の世をわたりて
 りてくちかふつる
 されむかめたるを
 ひきよのよ
 らぶるはまよ
 るるはまよ
 しんといり
 けれはかち
 のせこれち
 やまのつら
 けるそのち
 よるくへん
 此の世の世をわたりて
 りてくちかふつる
 されむかめたるを
 ひきよのよ
 らぶるはまよ
 るるはまよ
 しんといり
 けれはかち
 のせこれち
 やまのつら
 けるそのち
 よるくへん



此の世の世をわたりて
 りてくちかふつる
 されむかめたるを
 ひきよのよ
 らぶるはまよ
 るるはまよ
 しんといり
 けれはかち
 のせこれち
 やまのつら
 けるそのち
 よるくへん
 此の世の世をわたりて
 りてくちかふつる
 されむかめたるを
 ひきよのよ
 らぶるはまよ
 るるはまよ
 しんといり
 けれはかち
 のせこれち
 やまのつら
 けるそのち
 よるくへん

此の世の世をわたりて
 りてくちかふつる
 されむかめたるを
 ひきよのよ
 らぶるはまよ
 るるはまよ
 しんといり
 けれはかち
 のせこれち
 やまのつら
 けるそのち
 よるくへん
 此の世の世をわたりて
 りてくちかふつる
 されむかめたるを
 ひきよのよ
 らぶるはまよ
 るるはまよ
 しんといり
 けれはかち
 のせこれち
 やまのつら
 けるそのち
 よるくへん



此の世の世をわたりて
 りてくちかふつる
 されむかめたるを
 ひきよのよ
 らぶるはまよ
 るるはまよ
 しんといり
 けれはかち
 のせこれち
 やまのつら
 けるそのち
 よるくへん
 此の世の世をわたりて
 りてくちかふつる
 されむかめたるを
 ひきよのよ
 らぶるはまよ
 るるはまよ
 しんといり
 けれはかち
 のせこれち
 やまのつら
 けるそのち
 よるくへん

一のちのち...
 一のちのち...
 一のちのち...



一のちのち...
 一のちのち...
 一のちのち...



一のちのち...
 一のちのち...
 一のちのち...

右の... 左の... 天... 皇... 臣...
 右の... 左の... 天... 皇... 臣...
 右の... 左の... 天... 皇... 臣...



右の... 左の... 天... 皇... 臣...
 右の... 左の... 天... 皇... 臣...
 右の... 左の... 天... 皇... 臣...

右の... 左の... 天... 皇... 臣...
 右の... 左の... 天... 皇... 臣...
 右の... 左の... 天... 皇... 臣...



右の... 左の... 天... 皇... 臣...
 右の... 左の... 天... 皇... 臣...
 右の... 左の... 天... 皇... 臣...

右の下の... びびら... びびら... びびら...
 びびら... びびら... びびら... びびら...
 びびら... びびら... びびら... びびら...
 びびら... びびら... びびら... びびら...



右の下の... びびら... びびら... びびら...
 びびら... びびら... びびら... びびら...
 びびら... びびら... びびら... びびら...
 びびら... びびら... びびら... びびら...

右の下の... びびら... びびら... びびら...
 びびら... びびら... びびら... びびら...
 びびら... びびら... びびら... びびら...
 びびら... びびら... びびら... びびら...



右の下の... びびら... びびら... びびら...
 びびら... びびら... びびら... びびら...
 びびら... びびら... びびら... びびら...
 びびら... びびら... びびら... びびら...



たのしい... (Vertical text columns on the right page)



この... (Vertical text columns on the left page)



吉
法
王
の
御
座
に
坐
す
て
光
輝
を
放
つ
と
衆
生
を
照
す
ま
す
と
云
ふ
御
座
の
下
に
坐
す
二
人
の
御
座
を
見
て
お
祈
り
す
と
い
ふ
御
座
の
下
に
坐
す
二
人
の
御
座
を
見
て
お
祈
り
す
と
い
ふ



二十三日 十日 十日 十日 十日
の
御
座
を
見
て
お
祈
り
す
と
い
ふ
御
座
の
下
に
坐
す
二
人
の
御
座
を
見
て
お
祈
り
す
と
い
ふ



全右のひとふその
 せめてんたるいもの
 まるりをまきうけつて
 こゝろをたてまきうけ
 年格何れもさうを
 るらむとらるる
 けり



全右のひとふその
 せめてんたるいもの
 まるりをまきうけつて
 こゝろをたてまきうけ
 年格何れもさうを
 るらむとらるる
 けり

全右のひとふその
 せめてんたるいもの
 まるりをまきうけつて
 こゝろをたてまきうけ
 年格何れもさうを
 るらむとらるる
 けり

半俗退士作

此は法皇の御代に
 御成敗の御書に
 御成敗の御書に
 御成敗の御書に

末法はなほ廣宣流布使
 不斷絶の君が世ふつて人の
 発端をれいせむか

富士大石事改り
 法華山
 唐金宝塔

高き改横巾
 厚き待屋巾
 四方反目
 風鈴罽紋
 天保六年六月見出之

家傳神女湯
 精製さむ丸

弘明元飯田町
 たき次氏



湖月百人一首探庫

源氏繪巻
 女今川入

繪本名頭武者部類
 前北藤筆
 全

千景百人一首
 女月文入
 中本全

源氏繪巻 中本全
 姿百人一首小全

蘭山先生著
 女男の姿と御成敗の御書
 女男の姿と御成敗の御書
 女男の姿と御成敗の御書
 女男の姿と御成敗の御書

鶴賀新内正本所
 和泉屋市兵衛

